

## 第20回 DAAS運営委員会 議事要旨

1. 日 時：2012年6月29日（金） 午後2時～午後3時30分

2. 場 所：ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA セミナー室

〒100-0014 東京都墨田区本所 3-15-5 1階 Tel: 050-3786-0568

3. 出席者 敬称略 順不同

運営委員長：三塩（日本設計）

委 員：鈴木委員（日本建築士会連合会）、早川委員代理安生暁氏（日建設計）、  
渡辺委員（積水ハウス）、本多委員（山下設計）、竺委員（建築学会）

事 務 局：武藤

4. 配布資料：

資料 1 第6期事業経過報告

資料 2 第6期予算執行状況について

資料 3 データ管理体制とその費用について

資料 4 白井晟一氏資料について

白井晟一氏作品リスト

5. 議事：

■報告事項

[議案1]

第6期事業経過報告

資料1に基づき、事務局より第6期事業の経過、方針等の説明を行った。また口頭にて UIA2011 TOKYO大会での建築家投稿サイト「一万人の世界建築家展」のサイト運営をDAASにて引き受ける案、及び電子書籍制作案について説明をした。

以下のような説明及び意見交換があった。

【以下、意見等】

（事務局：三塩）資料に含めていないのだが、事業の提案の一つとして、UIA2011 TOKYO大会の「一万人の世界建築家展(<http://www.10000architects.com/?jp>)」というWebサイトの運営をDAASで申し出るという件について説明をしたい。UIAの期間はJIAの中に委員会があり、Webサイトの運営をしてきたが、現在は解散している。その為現在、サイトの閲覧は可能であるが、新規登録を受付けていないという状況である。実際には、登録した建築家数は一万人には達していない状況（1300人程度）ではあるが、海外の建築家、組織に所属する建築家、等々、登録者にも幅がある。「一万人の世界建築家展」サイトは建築家一人につき資料1点という制限であ

ったが、DAAS の収蔵写真と関連づけをし、お互いにリンクをするということで双方のサイトを活かせると考えている。DAAS には近作や受賞作品も登録されているので、この Web サイトは建築家にとっての戸籍とも言えるサイトとなり得る。また、建築家、ゼネコンに所属、海外の方々も含め DAAS の周知、広報につながると考えている。今後、サイトを再オープンした場合には、新規登録を実費程度の費用を頂く、または会費制にするなども考えられる。企業会員以外の個人会員の幅を拡げることにも繋がると考える。JIA の芦原会長へ提案に伺いたいと考えている。また、電子書籍化についても検討している。「電子書籍」という言葉から受ける印象はそれぞれ違うのではないかと考えるが、書籍、雑誌のようにページをめくるというものではなく、Google マップに場所が出る、タイムリーな情報にアクセスされている、等の「電子ガイド」「建築ガイド」として活かす「アプリケーション」のイメージである。これを収入源にできるのではないかと考えている。例としてアーキタイザーのサイトを紹介したい。(http://www.architizer.com/en\_us/)。投稿はできるが、写真のダウンロードはできない。この形にしておけば、建築写真家で理解がある方々を中心に、投稿という形で、参加を依頼していきたい。この事業の組立は、アーキメディア大森氏と検討する予定である。6 期の様々な試行の一つとして提案したい。

(事務局：武藤) 委員の方々の意見を頂くきっかけとして DAAS の事業の案を資料に書き出している。子供のためのワークショップ、建築保存の街歩き、建築写真のワークショップ、SNS の利用、メールマガジン、新規コンテンツ、広告収入、Web サイトの二極化についての提案、Web サイトの課金システム、電子書籍のアプリ製作、一般の方の参加のきっかけづくりとして寄付の特典がついたアプリの提案、アーカイブの縦断検索、インデックスの統合を考え、DAAS で資格等の呼びかけを大学・団体と協力するなどである。寄付の特典がついたアプリの提案については、ある活動に対して、1 クリックをすることでスポンサーより、その活動・団体に寄付が送られるというものである。これは企業の CSR の活動としてスポンサーを募る必要がある。建築保全をしている団体へ寄付なども考えられる。

(笹委員) DAAS に直接寄付がされる、ということならわかるが。

(事務局：三塩) かつての名建築を残そうという所に特化すると企業も離れていくかもしれない。

(事務局：武藤) その他、委員会資料への記載が間に合わなかったが、東京芸術大学の附属図書館や、彫刻科でのデジタルスキニングのデータベース等へのヒアリングをする予定である。建築学科では写真家とのワークショップを検討されていると言うことなので、確認しようと考えている。

(事務局：三塩) 現在、資料の保全という活動自体は根底にあるが、その資金を集めるための活動を拡げようというところで、様々な試行をしているところである。

(鈴木委員) 収入源については、あくまで会費運営がメインだと思われる。会費を出してもらっている会員企業・団体のPR、メリットがないと今後の継続は難しいと考える。DAASという団体に賛同して出資しているのであるから、そこで建築の保存に貢献している、というところを大きく出すなど、企業から「こういう事をして欲しい」という意見を聞いた方がよいのではないだろうか。

(事務局：武藤) 会員・委員会向けページと意見集約というところで、DAASに何を望むかというところを確認したいと考えている。本来、企業にも直接訪問し話を伺うべき、と考えている。

(笠委員) 全くその通りである。会費がメインの収入であるので、会員のメリットを考えなければやはり賛同ができない。その為の事業を進めるべきである。様々な活動が会員企業からどう映っているのか、という話を徴収して反映するということが必要。アーカイブの展開は、妥当な方向へ話は進んでいると考えるが、建築家や企業の専門家に対しては、しっかりとした内容でなければならない。その上で、それとは別に一般向け、大衆向け、という切り分けでやってよいと考える。専門家に対してそのサービスがしっかりしていれば、大衆に対してのサービス、例えばスマートフォンなどもしっかりとしてくるものである。常にアーカイブのネックになっていることは「建築家自身がアーカイブの重要性を全く理解していない」ということ。他の団体でも理事が替われば温度が変わる、ということが起き、また一から積み上げなければいけない。むしろ私は先ほどの一万人の世界建築家展のサイトを運営して、建築家自身が、建築文化、記録、作品、データを残し公開していくということで、建築保全の重要性を認識することにつながり、サイト拡げて運営することは非常に良いと考える。例えば組織系の設計事務所の作品が閲覧出来て、広く設計事務所の作品を世の中に知らしめる、そこにバナーがあり、クリックすると寄付されるという仕掛けでも良いと思っている。それは個人のアトリエ事務所、建設会社などにも広がると言うことを考えれば、可能性があるのではないか。支える会員にメリットがあるということをもっと考えていかなければならない。

(事務局：三塩) 二極化「一般化と専門化」という二つに向いて、少しずつ活動が広がっていくというところはやむを得ないところではないかと思うが、その為にも専門家、建築家がDAASを意識しうまく活用してもらおう、ということをもっと重点をおかなければと考える。そのような専門的、本格的な内容であれば、そこに一般の人にも興味をもって訪れることに繋がるかと思う。インターネットのスピードは加速しており、Webサイトは容易に利用できるようになったが、専門家の領域をもう少し拡大していくという必要があると思っている。写真の収蔵だけでなく、個人の建築家の顔が見えるというところは意味のあるものだと考えるので、一万人の世界建築家展(のデータや、仕組み)が死蔵されてしまうのは勿体ない話であり、DAASで本格的に取り組みたいと考える。

(笹委員) 電子書籍についてだが、iPadやKindleで閲覧しているが、データ専用のコンテンツがあるが、ベーシック、基本的な情報は閲覧できる(提供する)、動画などのエクストラのものは課金される、などとなっている。そういうことを考えてはどうだろうか。

(事務局：三塩) 音声や映像のみのコンテンツはまさに、電子化でしかできないものである。そこで課金の仕組みをつくるなどもサイトの力、特長ではないだろうか。事務局内でビデオの編集作業などのスキルも身につけ、事務局内でインタビュー撮影に行くということもかんがえられる。そういったことで少しでもご本人の声を残すということは収入源につながると考え、積み上げて行きたいと考える。

(事務局：武藤) 会員の声が事務局に届いていないと思っている。アンケート、意見集約の効果があるかはわからない。

(事務局：三塩) アンケートは、担当者によって回答が変わることも考えられる。窓口の方が事情はわかっている、会員企業や団体のどこに意見を伺えばよいかということが難しいところ。

(事務局：武藤) 本来直接伺って話を聞くべきかもしれない。

(笹委員) アーカイブス学会という大学が中心になりアーキビストの資格認定について、建築を含めたいという連絡があった。また学習院大学にも講座ができており、そこで建築をやりたいという方がいる。実際にアーカイブの経験を積めるところがないので、金沢工業大学のインターンシップに来ており、単位を取得する。また設計プロセスを経験していないと、キュレーター資格があっても、図面の整理などをする建築のアーキビストとしては難しい。問題は職能を整備する人がいない。どうしても経験が必要であり、建築の専門家が必要である。職能となれば大きな力にして文科省なども含めて資格をつくる運動もしてみたい。

(事務局：武藤) DAASとしては、アーカイブをどう築くか、その相談窓口となれば、参加企業へのメリットにもなるのではないかと考えている。

(事務局：三塩) アーカイブス学会、学習院大学、国立アーカイブについては調べてみるともう少し見えてくるのではないかと。それ以外には、JIAのアーカイブス委員会がある。そことコンタクトをとるということで、活動内容を交換していきたい。一万人の世界建築家展の話をする際に、併せて委員会に相談できるよう、事前に委員の方を調べて、コンタクトをとりたい。日本でそのような動きがあるとなれば、企業も価値観が変わると考える。

(笹委員) 会長は現在仙田氏である。JIA-KIT建築アーカイブスの実質の運営方針についてもそこで決定している。それからJSTORより日本で展開するエージェントについて相談があった。7,000の大学で、美術館が含まれている。学術利用であれば無料であるが商用利用は有料。キックバックをDAASのコンテンツをARTSTORで利用で

きないかと考えている。JIA-KIT建築アーカイブスでは資料の収蔵が進んでいる。建築家同士の口コミで広がっているという状況である。

[議案2]

第6期予算執行状況について

資料2に基づき、予算の執行状況について事務局より説明を行った。

[議案3]

データ管理体制とその費用について

資料3に基づき、事務局よりこれまで慶應義塾大学内のデータサーバ内で管理していた高精細画像を含む元データやビデオについての管理体制の変更についてとその費用について説明を行った。現在???

[議案4]

白井晟一氏資料について

資料4に基づき、事務局より説明を行った。具体的な収蔵資料については未定であり今後の展開については、委員にも相談しながら進めていくことを口頭で説明を付け加えた。

以上